

1 やたがわとうしゅこう 依田川頭首工



MAP D-5

【所 在】上田市
【築 造】昭和30年(1955年)
【管理者】長野県小県郡依田川沿岸土地改良区

上田市(旧丸子町)腰越地区の依田川右岸側の頭首工から取水した水は、右岸(丸子、長瀬、塩川地区)、左岸(腰越、東内、依田、東塩田地区)にかんがいられています。難所であった二ツ木峠を貫く隧道を建設したことで、東塩田地区まで新たに用水を流せるようになりました。



2 しおただいら 塩田平のため池群



MAP D-5

【所 在】上田市塩田
【築 造】戦国時代末期～
【管理者】自治会・農家組合等

上田市は、全国的にも非常に雨の少ない地域で、塩田平には100以上のため池が存在します。多くは戦国時代末期、上田城主真田氏の時代に築造されました。池の名称には、発祥となる伝承が残っているものがあります。また、歴史や景観の美しさを評価された塩田平のため池群は、農林水産省の「ため池百選」に選ばれ、水を利用する地域住民によって大切に管理されています。



3 かんがわさかんせん 神川左岸幹線



MAP D-5

【所 在】上田市・東御市
【築 造】昭和49年(1974年)
【管理者】長野県神川沿岸土地改良区

神川左岸幹線水路は、かんがい・発電等を目的とした管平ダムの建設に併せて、昭和43～49年に築造されました。上田市真田町にある神川の大日向頭首工から取水され、途中の山腹を等高線沿いに進み、トンネルやサイフォンを通り、約14kmの距離をほぼ地上に姿を見せることなく用水を運んでいます。上田市・東御市約430haの農地では、米、リンゴ、ブドウの生産が行われています。



5 よしたせき 吉田堰



MAP D-5

【所 在】上田市・東御市
【築 造】奈良時代(717年頃)
【管理者】吉田堰管理組合

吉田堰は、神川の水を上田市真田町石舟にある頭首工から取水し、真田町長・本原・殿城・吉田を通して、東御市の深井・海野まで流れる約9kmの水路です。開削は717年頃といわれる歴史ある水路ですが、大雨のたびに取水口が流され、堰渡いや漏水防止の改修、需要期の水引に費やす労力と経費は莫大なものでした。昭和40年代、管平ダム建設に併せて全面改修が行われ、農家の負担は軽減されました。



7 おおせき 大堰



MAP E-5

【所 在】上田市武石
【築 造】鎌倉時代
【管理者】上田市

標高2000mの美ヶ原高原を源とする武石川は、水温が低く、かんがい用水として利用するには冷害を招くおそれがありました。このため、水路幅を広くとり水深を浅くすることによって、太陽熱で水を温めるようになっています。上田市武石総合グラウンドの周辺や武石小学校の校内を流れており、地域に潤いと安らぎを与えています。



4 しおがわせき 塩川堰



MAP D-5

【所 在】上田市丸子
【築 造】平安時代
【管理者】長野県小県郡依田川沿岸土地改良区

上田市丸子の依田川右岸に広がる水田約470haを潤す塩川堰は、塩川用水とも呼ばれ、上堰、下堰の総称で、和田峠を源とする依田川から取水しています。塩川堰の歴史は定かではありませんが、流域で確認されている糸里(基盤目状に区画された土地)遺構から、平安時代から段階的に開発されてきたと考えられています。昭和20年代の農業水利改良事業により改修されました。



6 すがだいら 管平ダム



MAP C-5

【所 在】上田市菅平
【築 造】昭和43年(1968年)
【管理者】長野県

かんがい、上水道及び発電のため、長野県、上田市、長野県神川沿岸土地改良区が共同事業者となって建設した利水ダムです。ダムに蓄えられた用水は、神川から取水する15の堰から約1,300haの農地を潤して、干害に悩まされていた農地の生産性は、安定した水の供給によって飛躍的に向上しました。また、河川の流況が安定したことで農業以外にも計り知れない恩恵をもたらしています。



8 さやまいけ 沢山池



MAP D-5

【所 在】上田市野倉
【築 造】昭和9年(1934年)
【管理者】上田市塩田平土地改良区

上田市塩田平は、年平均降水量が900mm程度と非常に雨の少ない地域で、多くのため池が造られました。沢山池は塩田平のため池に用水を補給するための水源として、塩田平の奥地に、昭和9年から13年にかけて造られました。江戸時代に大小100におよぶため池が築造され、塩田3万石といわれる水田に今も豊かな水をたらし、地域農業の礎を担っています。



9 やえはらせき 八重原堰



MAP D-5

【所 在】東御市八重原
【築 造】寛文2年(1662年)
【管理者】東御市八重原土地改良区

江戸時代初期に小諸城主青山氏の家臣、黒澤嘉兵衛によって開削されました。蓼科山麓を水源とし、総延長は88km(当時)にもおよぶ長大な堰の開削は、完成までに約10年の歳月と10万人もの人足を費やし、工事のため人命を落としたこともあるという過酷なものでした。堰と併せて、台地に明神池、田楽池などのため池を造成したことにより、不毛の台地は大きく発展しました。



11 ほりこしせき 堀越堰



MAP D-5

【所 在】上田市上野
【築 造】不明
【管理者】堀越堰水利組合

神川右岸から取水する5つの堰の中でも最大の堀越堰は、神科地域から塩尻地域を広く潤しています。神科地域には、糸里制遺構が残っており、堀越堰の開削は古代にさかのぼるといわれています。1677年に旧隧道工事が行われましたが、別所層と呼ばれる泥岩層の岸壁は崩落しやすかったため、昭和45年の改修により、ようやく安定した用水が供給できるようになりました。



13 ひめこざわ たなだ 姫子沢の棚田



MAP D-6

【所 在】東御市祢津・和
【築 造】不明

東御市の東部に位置する姫子沢の棚田は、集落の周辺から幾重にも連なるように広がり、眼下には千曲川の流れて上田平を望み、農村集落と棚田が一体となって美しい農村風景を織りなしています。戦国～江戸時代に現在の場所に開田されたといわれており、今も地元農家の皆さんにより受け継がれています。



10 ろっかさんせき うえだのうすいとうしゅこう 六ヶ村堰・上田農水頭首工



MAP D-5

【所 在】上田市小牧
【築 造】寛永9年(1632年)
【管理者】上田農水連合会(六ヶ村堰・樹網・塩田平土地改良区)

六ヶ村堰は、当時の小牧村、諏訪形村、神畑村、上田原村、御所村、中之条村の六ヶ村へのかんがいを目的として、江戸時代初期、上田城主仙石政俊によって開削された用水路です。昭和24年、千曲川右岸の樹網用水の取水口を合口し、今までの取水口より600m上流の岩盤露出地点に頭首工を造るとともに、幹線用水路6,500mの大改修が行われました。



12 いなぐら たなだ 稲倉の棚田



MAP D-5

【所 在】上田市殿城
【築 造】江戸時代中期
【保全団体】稲倉の棚田保全委員会ほか

稲倉川沿いの標高640～900mに780枚以上の棚田が連なり、石積みには人々の営みを感じます。四季折々の色彩や眼下に広がる箱庭のような上田市街、遠方に望む八ヶ岳、美ヶ原、北アルプスの山々は感動的な景観を織りなしています。はぜかけ米や棚田米日本酒の販売、小中学生による農作業体験、棚田オーナー制度のほか、案山子まつり、ほたる火まつりなど観光イベントも開催されています。



14 たきざわ たなだ 滝の沢の棚田



MAP D-6

【所 在】東御市祢津
【築 造】不明

東御市の東部に位置する滝の沢の棚田は、石積の田んぼが集落を取り囲むように広がり、美しい農村景観を生み出しています。平均勾配1/8程度(距離8mにつき1mの高低差)の急峻な土地では、法面を減らして少しでも広い耕作面積を確保するため石積にしています。遠くに望む山々の眺望と融合し、豊かな風景が広がっています。



上田市塩田に伝わる雨乞い行事

上田市塩田は、肥沃な土壌であったため、「塩田三万石」といわれ、江戸時代、上田藩の約半分の米を賄っていた地域です。しかし、年間降水量が900mm未満と非常に少ないため、古くから数多くのため池が造られ、雨乞いの行事が行われてきました。

その一つである「岳の幟(たけののぼり)」は、別所地区に伝わる雨乞い行事で、今から500年ほど前に大干ばつがあり、夫神岳(おかみだけ)の山の神様に雨乞いの祈願をしたところ、恵みの雨が降ったことから、山頂の祠に九頭龍神を祀り、各家で織った布を奉納したことが始まりといわれています。

7月中旬の日曜日、まだ暗いうちに夫神岳へ登り、日の出とともに山頂の祠で五穀豊穡を祈願した後、色とりどりの反物と竹竿で作った幟を掲げて、別所神社まで練り歩きます。



岳の幟